

# 学会ニュース

..... 第94号 2020年10月

## 目次

・ 2020年度学会費納入のお願い	..... 1
・ 第42回大会および第43回大会について	..... 1
・ レクチャーコンサート顛末記（辻 昌宏）	..... 2
・ 2020年国際執行委員会報告（玉田 敦子）	..... 3
・ 事務局より	..... 4

## 2020年度学会費納入のお願い

代表幹事 逸見 龍生

学会ニュースの発送とあわせて、会費未納の方には払い込み用紙を同封させていただいています。学会の活動は皆様の会費によって支えられています。事務局におきましても円滑な学会運営のため身を引き締め変わらず努力する所存ですが、会員の皆様にはどうか苦しい学会の財政事情をご理解いただき会費納入にご協力をお願い致します。

口座番号は以下の通りです。

〈郵便口座振替で振り込む場合〉

口座記号番号：00800-7-183350 口座名称：日本18世紀学会

〈銀行等から振り込みする場合〉

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：〇八九店（ゼロハチキュウテン）

預金種目：当座預金 口座番号：0183350

行き違いにより、会費を納入したにもかかわらず振替用紙が届いた方は、お手数ですが、事務局までご連絡ください。

## 第42回大会および第43回大会について

今年度の第42回大会は、2020年6月27日（土）、28日（日）に明治大学で開かれる予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的拡大にともない、実地での開催を中止いたしました。代替措置として、自由論題報告とレクチャーコンサートをオンライン方式で実施しました。開催校責任者の奥香織会員と辻昌宏会員をはじめ、関係者の方々に篤くお礼申し上げます。

来年度の第43回大会は、2021年6月に関西大学で開かれる予定です。開催校責任者は安武真隆会員と中澤信彦会員です。不確定要素が多いため、現時点では日程や方式を決めるに至っておりません。今後、関係者と綿密に協議しながら幹事会において決定し、来年1月に発行する学会ニュース第95号で詳細をお知らせします。

## レクチャーコンサート顛末記

辻 昌宏 (明治大学)

2020年度の日本18世紀学会のレクチャーコンサートは、当初の予定から大きく変更し、**You tube** を用いての開催となった。周知のように新型コロナウイルスのせいなのだが、学会としても初めての経験だったということで、覚え書きのようなものを記しておくのも意味のないことではないと思う。

昨年度に開催校をお引き受けした時には、開催校委員として奥香織先生と私が中心になって準備をするということで、重複して担当した部分もあるものの、おおまかな振り分けとしては、奥先生が会場の手配をしてくださり、私はレクチャーコンサートの講師である原雅已さんとの交渉を担当していた。

明治大学駿河台キャンパスで開くことを当初予定しており、リバティーホール（リバティタワー1階）が良いと考えたが、学内の行事が学会より優先なので、万が一、使用できない場合を考え明治大学の同窓会館である紫紺館を予約する。チェンバロの運び込みを考え、2台のエレベーターや階段の寸法も計測した。リバティーホールが使用できるかどうかは2020年3月くらいに判明する予定だったのだが、その頃には新型コロナの勢いが日本全国に広まりつつあり、キャンパスの使用が誰に対してであれ許されなくなり、卒業式当日ですら例年は教室で学位記を授与するのだが、それも中止となった。というわけで、リバティーホールであれ、紫紺館であれ、レクチャーコンサートが開催できるのか、18世紀学会を明治大学のキャンパスで開催できるのかが不透明になった。18世紀学会を対面で開くかどうかは、学会の幹事会により決定された。

手元のメールを見ると、3月下旬から私は原雅已さんとレクチャーコンサートの**You tube** での開催について相談を始めている。この時点では、幹事会での正式な決定ではなく、代表幹事や事務局の了承のもとに幹事会に提案する前の調整段階であった。

原雅已さんのお返事は、コロナ禍でコンサートなどが軒並みキャンセルになっている中、学会の申し出はありがたい、というポジティブなもので、ただし、事前に収録となると、予定していたリハーサルなどの日程を組み替える必要があるという。われわれも予定変更の連続だったが、原さんおよび共演者、録画技師、スタジオの側も予定変更の連続だったのである。スタジオによっては貸さなくなってしまったところもあると聞く。原さんとのすりあわせで、演奏者の側からすれば学会側の正式決定がなければスタジオを予約してしまうとキャンセル料の発生がありうるということがわかった。こうして私と原さん、代表幹事、事務局とのメールのやりとりは何十通にもものぼった。5月の連休明けからは、**zoom** による大学の授業が始まり、こちらも全く初めての体験で右往左往しながら、レクチャーコンサートの打ち合わせが続いた。私は、全く自慢にならないが事務的なことに頭の働きが鈍いので、スタジオのキャンセル料など原さんから指摘されて初めて気がつくことも多かったが、学会の幹事会の皆さんも、原さんも、私も、こういう時期だからこそレクチャーコンサートの意義が増しこそすれ、減じることはないという考え方が一致しており、意欲的に仕事ができた。

が、5月の連休明け前後で、レクチャーコンサートの質疑応答をどうするかで、また、たくさんのメールが飛び交った。質疑応答をツイッターを使ってやる、**zoom** を使ってやる、やらない、その場合誰がそれを担当するか、の問題がこんがらがった状態になった。私は、対面であれば、質疑応答をふくむ一通りの司会をする心づもりであったが、オンラインになって困った面もあった。ツイッターを日常的には全く使っておらず、その機能も承知していない。目前には **zoom** 授業の開始が控えており、その習得で精一杯。その件に関しては、代表幹事、事務局に**SOS**を發した。

一時は**zoom** で質疑応答という案も出て、それならそれでオーケーだったのだが、結局その案は流れた。個人的には、対面のレクチャーコンサートが出来なくなったものが、**You tube** で配信出来たらもう御の字で、質疑はメールでやりとりしてもよいのではぐらいの気であったのだが、IT技術に長けた人たちはせっかくだからもう一歩進めましょう、という気持ちがあったのだと思う。結局、私もスタジオで冒頭の挨拶をし、それを収録することになった。

というわけで、スタジオ録画には立ち会った。千駄ヶ谷のスタジオで、原雅巳さんの他に、歌手2名、ヴァイオリニスト1名、チェンバリスト1名、録画技師1名である。小さなスタジオなので、密といえは密。最初はマスクをしていたが、歌手が歌い始めると、マスクをしているのも妙な気がした。途中からみなマスクはつけていなかった気がする。私は、久々の生の音楽を、しかもヘンデルの音楽を間近で聞くことができ、人の声の美しさ、ソプラノとヴァイオリンのメロディーが対話するヘンデルの音楽の妙、チェンバロの響きが間近で聞くと、意外なほど低音もまた超高音も出ていることを感じ、音楽的にも音響的にも得がたい経験をし、役得であった。密のリスクについては個人的にはさほど感じなかった。オペラを聴いて、感染するなら本望という思いもあったかもしれない。

スタジオでは録画技師は、床にテープを張りここでイン、ここでアウトと示して、歌手はそれを意識して歌と演技を進める。歌手の立場からは、録画ということになると小さなミスも気になるということで同じ曲を複数回撮り直すことになる。You tube をご覧になった方はお気づきになったと思うがお二人は役柄を2つずつ演じており、役柄が変わると、衣装を替えている。そのほかにバロック・ジェスチャーの説明もあった。昼から夕方まで休みなくずっと録画は続いた。休みというのは歌手の方が衣装替えをしていたり、原さんが録画技師と編集の打ち合わせをしており、こちらはぼうっとしているが、歌手や原さんは休みなしである。原さんのレクチャーは明快この上ないものだが、原稿が準備された上で、なおかつわずかな言い間違いなどを修正して丁寧に撮り直しをしてある。

その後は、こちらはやれやれ一山越えたと思っていたが、レクチャーコンサートをよりよきものにブラッシュアップしようというサポートして下さる方が沢山いらして、ほんの一部しかお名前をあげられないがツイッターなどでレクチャーコンサートの宣伝（今回は日本18世紀学会の宣伝をかねて、You tube を公開にしている。ただし原さんの提供してくれた資料などは学会員限定）をして下さった岩佐愛先生、金沢文緒先生、隠岐さや香先生、玉田敦子先生、さらに隠岐先生は説明の字幕をつけてくださり、岩佐先生は資料の点検をして下さった。こうした貴重な貢献によって、You tube のレクチャーコンサートの存在が周知され、内容が一層判りやすくなり、完成度が高まったのは言うまでもない。

中身の充実が第一の要因であろうが、宣伝周知の甲斐もあって、You tube は公開数日で1000回視聴を超えた。

最後ではあるが、大事なこととして付け加えておきたいのは、予算の報告書づくりに関しても、実に綿密なやりとりが事務局、奥先生、原さんの間でやりとりされている。全く皮肉ではなく、ご苦労様なことである。レクチャーコンサートの裏方の一人になってみて、実際のコンサートやオペラでもこういった作業、工程がさらに複雑になった形で行われているであろうことに、心底思い至った次第である。

## 2020年国際執行委員会報告

玉田 敦子

国際18世紀学会の国際執行委員会もオンラインでの開催となった。日本からは隠岐会員と玉田が参加。Voice Boxerという見慣れないプラットフォームに最初は戸惑ったが、事務局のNelson Guilbert氏の司会と運営により、英語と仏語の通訳者の通訳がつき、様々に細やかな配慮の行き届いたオンライン会議であった。本来ならば、ポツダムで開催されるはずの執行委員会に出向くことができなかったのは残念ではあったが、グリニッジ標準時で午後2時から、南米、インド、アフリカ、欧州各国の世界中の役員、代表が時差を超えて一つの画面に集う会議は壮観であり、新しい時代を予感させるものであった。

さて、2019年の学会ニュース第91号「国際執行委員会報告」において隠岐会員から伝えられたとおり、1967年以来、40年にわたって国際18世紀学会の財務管理をしていたオックスフォード大学ヴォル

テール財団が全集刊行の終了に伴って業務を縮小したことから、昨年新たに財務管理を継承する組織として、ソルボンヌ大学に新法人「IAECS（18世紀研究アソシエーション）」が設立された。

前回の報告にあったように、新法人は、フランスの1901年アソシエーション法により、2019年8月9日に法的に設立が受理されたものである。国際学会の運営管理を保証する国際法が存在しないためのやむをえない措置であったが、現会長は、法人設立は、世界の国際学会においても類をみない措置であり、国際18世紀学会がパイオニア的な役割を果たしたことを強調している。今回の執行委員会では、関係幹事の尽力によりスムーズに移管がなされ、口座が無事にフランス郵便局（La Poste France）に移転されたことが報告された。なお、新法人に引き継がれるのは財務管理のみで、ウェブサイト運営や名簿管理等を担う事務局は、すでにカナダのケベック大学に移転している。

学会の財務状況は好調である。これには先回、2019年のエジンバラ学会が大変な盛況で、1600名以上の参加登録があり、英国18世紀学会が国際18世紀学会に10000ユーロを超えるドネーションをしたことが大きく寄与している。日本学会からの寄付金についても言及があった。2021年も不測の出費がある可能性があるが、現在のところ、資金面で問題は無い。

今回の執行委員会では「若手研究者の支援」が執行委員の共通の関心、今後の学会における主たるテーマであることが示され、すべての提案が承認された。1) まず会計副担当幹事のスガン氏から、国際18世紀学会のオンラインジャーナル *International Review of Eighteenth-Century Studies* の可視性を高めるための提案があった（詳細はスガン氏から改めて文面で連絡がある）。2) さらに Ann Arbor（アメリカ）で開催される来年の若手セミナーについては、学会副事務局長のグッドマン氏からセミナーのオンラインでの開催が提案された。3) また、昨年、エジンバラ大会を開催した英国18世紀学会からは若手研究者への支援が提案され、承認された。次回の大会は、現在のところ通常どおり、2023年7月9日～14日に開催される予定である。これに先立って来年の国際執行委員会は同じくローマにて、2021年の7月14日から16日にて開催される。



## 事務局より

### 会員種別の導入とこれに伴う年会費の変更について

今年度より、会員種別が導入され、年会費が変更されております。

通常のA会員の他に、次世代支援のため、学生または常勤職をもたない方達を対象とするB会員を設けました。従来の一律5,000円であった年会費にかえて、A会員は6,000円を、B会員は3,000円を、それぞれの年会費として毎年所定の期日までに納入して頂くこととなります。

会員種別および変更後の年会費は、『年報』末尾および学会ウェブサイトの会則最新版で既に改正後のもの（会則第5条）を掲載しております。年会費について証明をご希望の方は、『年報』または学会ウェブサイトの「日本18世紀学会会則」を印刷してご利用ください。

### メールアドレスご登録のお願いとメーリングリストのご案内

日本18世紀学会では、会員の皆様のメールアドレス登録を進めています。それに基づくメーリングリストを介して、学会や研究会のお知らせなどをメールによって会員の方々に迅速にお知らせすることができています。今年度の大会は一部のプログラムをオンラインで提供しましたが、実施方法の周知にはメーリングリストを利用しました。当面は同様の事態が続く可能性があり、メーリングリストの役割が高まっています。メールアドレスをまだ登録されていない方や、アドレスに変更のある方は、事務局までご一報ください。

また、日本18世紀学会の全会員は同時に国際18世紀学会に所属するため、日本18世紀学会に登録さ

れたメールアドレスは同時に国際学会にも登録されます。国際学会へのメールアドレス登録を希望されない会員は、お手数ですが事務局まで個別にお申し出ください。

国際学会にメールアドレスが登録されると、国際学会からの重要な連絡を直接受け取ることができます。この登録にともない、各会員にはIDとパスワードが送られます。これを用いると、国際18世紀学会のサイトSIEDS-DIRECTに登録される会員情報にアクセスし、それを修正することができます。

(基本的に個人情報是非公開となっておりますので、希望する会員のみ、SIEDS-DIRECT上で「公開」を選択していただくことになります。) 数年おきの国際学会の役員選挙の際も、このIDとパスワードがあれば、郵送によってではなく、インターネットを通して投票することができます。

国際学会のメール登録一般と個人情報の公開の可否について不明なところがある場合は、日本18世紀学会事務局(jsecs18@gmail.com)もしくは直接に国際学会ウェブサイト担当者(Nelson Guilbert氏: admin@isecs.org)に問い合わせてください。

### 『年報』への論文投稿について

大会での発表をもとにしたもの以外の論文も投稿できます。詳しくは年報または学会ウェブサイト記載の投稿規程をご覧ください。

### 投書欄について

この「学会ニュース」に投書をしていただくこともできます。たとえば以下のような内容の投書が可能です。

- ・ 学会や事務局への意見、提案、希望など。
- ・ 掲示板：研究会の呼びかけ、行事の広告、情報提供の依頼(たとえば「『〇〇』という本を探しています」など)。会員同士の連絡にご利用ください。

いずれも事務局までお申込み下さい。

チラシや案内文書を「学会ニュース」に同封することも可能です。年3回の発行なので緊急の案内には適しません、全会員にお届けできます。(経費等の都合上、枚数の少ないものに限りです。)

### 共通論題のテーマ、および書評対象図書

会員からの提案を随時受け付けています。事務局または担当幹事まで。(ただし、共通論題のテーマ決定に際しては開催校の希望が優先されるので、必ずしもすぐにご提案が実現するとは限りませんが、事務局から開催校や幹事会に伝達します。)

当学会は学際的な学会であるため、会員の研究が広範囲に及び、担当幹事だけでは各分野の重要文献の情報を集めるのが困難です。書評で取り上げるに値すると思われる図書がある場合、事務局までお知らせください。(特にご自分の専門分野が当学会で十分に扱われていないと思われる方は、積極的にご推薦ください。)

### 学会ニュースのエッセー

今のところ、事務局から執筆をお願いしていますが、会員の皆さんからの希望も受け付けています。執筆を希望される方は事務局までお知らせください。

### 献本

学会宛に以下の図書をいただきました。お礼申し上げます。

- ・ 竹本洋『スミスの倫理 『道徳感情論』を読む』(2020年6月、名古屋大学出版会)
- ・ ミシェル・ドゥロン『アンシャン・レジームの放蕩とメランコリー 繊細さの原則』鈴木球子訳(水声社、2020年6月)

- ・ 伊藤友計『西洋音楽理論にみるラモアの軌跡 数・科学・音楽をめぐる栄光と挫折』（音楽之友社、2020年5月）
- ・ ジャン＝フィリップ・ラモア『自然の諸原理に還元された和声論』伊藤友計訳（音楽之友社、2018年9月）
- ・ 『十八世紀叢書VII 生と死——生命という宇宙』シャルル・ボネ／マリー・フランソワ・グザヴィエ・ビシヤ著、飯野和夫／沢崎壮宏／小松美彦／金子章予／川島慶子訳（国書刊行会、2020年9月）

### 新入会員の方へ

毎年6月の幹事会で入会を承認された方はその年度からの会員となります。6月の幹事会以降に入会を申し込まれた方は12月の幹事会で承認され次年度からの会員扱いになりますので、会費の請求はありませんが、他の会員同様に諸種の配布物をお届けいたします。

### 新会員の勧誘のお願い

ぜひ18世紀研究に関心のある方を本会にご勧誘ください。入会申込用紙は日本18世紀学会ウェブサイトからダウンロードできますので、よろしくご願ひいたします。

幹事会メンバー（50音順）：出羽尚（年報編集）、岩佐愛（ウェブ／広報）、王寺賢太（大会）、大石和欣（大会）、隠岐さや香（国際執行委員会派遣委員）、金沢文緒（ウェブ／広報）、川島慶子（ダイバーシティー）、小関武史（事務局長、会計）、斉藤涉（年報編集）、坂本貴志（年報編集委員長）、武田将明（年報編集）、玉田敦子（国際執行委員会幹事）、鳥山祐介（年報編集）、馬場朗（総務）、逸見龍生（代表幹事）

会計監査：井上櫻子、川村文重  
事務局委員：飯田賢穂、伊藤綾、淵田仁

日本18世紀学会ニュース 第94号 2020年10月発行

発行者 日本18世紀学会 代表者 逸見龍生

事務局 〒186-8601 東京都国立市中2-1

一橋大学大学院言語社会研究科 小関武史研究室 日本18世紀学会事務局

e-mail: [jsecs18@gmail.com](mailto:jsecs18@gmail.com)

tel: 042-580-9035

<https://www.jsecs.jp/>